

業界の

声



● 日本カービルト株式会社

代表取締役 若尾 明彦氏

解体業ではない。

『部品の再生製造』業である。

今はリサイクル時代。世の中は循環型社会の実現を目指している。そんな中、この循環型社会を目標として05年7月に設立された企業がある。それが県内最大規模の自動車リサイクル工場を持つ、日本カービルト株式会社だ。今回は、この会社の取り組みを取材した。

設立の目的

今までの県内の自動車リサイクル業は県外事業者の参入により、使用済み自動車(以下、廃車)の一部は県外に持ち出されていた。これは県内資源(廃車)の流出を意味するだけでなく、廃車の輸送によるCO₂増大という事態も引き起こしている。県内資源は県内で処理するべきであり、その結果がCO₂削減となる。その考えの下、敷地面積10,000m²、県内最大規模を誇る自動車リサイクル工場を持つ「日本カービルト株式会社」を設立した。

工場の特徴

一番の特徴は、やはり県下最大規模の敷地面積である。工場の処理能力は月に約1,000台と、県下では最大級の処理能力を保持している。この広さにより、県内資源の県内処理(地産地消)を可能とした。

また、「日本カービルト株式会社」は、自動車の100%リサイクルを目指している。そのため、なるべくセル方式(一人が一台の解体を手作業で担当)の採用に努めている。ライン方式(解体機械による作業)の方が効率性は優れているが、リサイクルという面では、作業がどうしても粗くなってしまうのだ。このリサイクル意識は、「私たちは解体業ではない。部品の再生製造業だ」という社員一同の意識の表れといえる。



今後、目指していきたく

一番は、CO₂削減とのこと。そのために、県内資源は県内で処理するという「地産地消」実現を目標としている。そして、もう一つは、完全なるリサイクル。持ち込まれた自動車を100%「再生部品」として販売出来るようこれからも努力していく、とのことだった。